

Canon EF LENS

EF70-300mm f/4-5.6 IS II USM



IMAGE STABILIZER

 ULTRASONIC

JPN

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノンEF70-300mm F4-5.6 IS II USMはEOSカメラ用の望遠ズームレンズです。

- ISはImage Stabilizer (手ブレ補正機能) の略称です。
- USMはUltrasonic Motor (超音波モーター) の略称です。

カメラのファームウェアについて

- 本レンズをご使用になる場合は、カメラの最新ファームウェアをキヤノンのホームページで確認してください。カメラのファームウェアのバージョンが最新でない場合は、最新のファームウェアにアップデートしてください。
- ファームウェアのアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や損害の発生を防ぐためにお守りください。

警告 死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- **レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。**視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。
- **レンズ、またはレンズを付けたカメラを太陽に向けたり、撮影をしたりしないでください。**太陽が画面外にあるときや逆光撮影の場合でも、レンズに入った太陽の光が集光し、故障や火災の原因となることがあります。
- **レンズキャップを外したまま、レンズまたはレンズを付けたカメラを日光の下に放置しないでください。**太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。

注意 傷を負う可能性がある内容です。

- **製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。**製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。

注意 物的損害を負う可能性がある内容です。

- **直射日光下の車の中など、高温になるところにレンズを放置しないでください。**故障の原因となることがあります。

一般的なご注意

取り扱い上のご注意

- レンズを寒いところから暖かいところに移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かいところから寒いところに移すときも、同様にしてください。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

撮影上のご注意

このレンズは、フォーカスレンズ（ピント合わせを行う役割のレンズ）の駆動にナノUSMを用いています。

このモーターはズーミング中もフォーカスレンズを動かしています。

1. カメラの電源が入っていない状態でのご注意

電源を切った状態やオートパワーオフで電源が切れた状態では、モーターが作動しないため、次のことにご注意ください。

- マニュアルフォーカスでのピント合わせはできません。
- ズーミングすると、ピントズレが生じます。

2. レンズの休止状態でのご注意

このレンズは、レンズを操作しない状態が続くと節電のため、カメラのオートパワーオフとは別に休止状態になります。

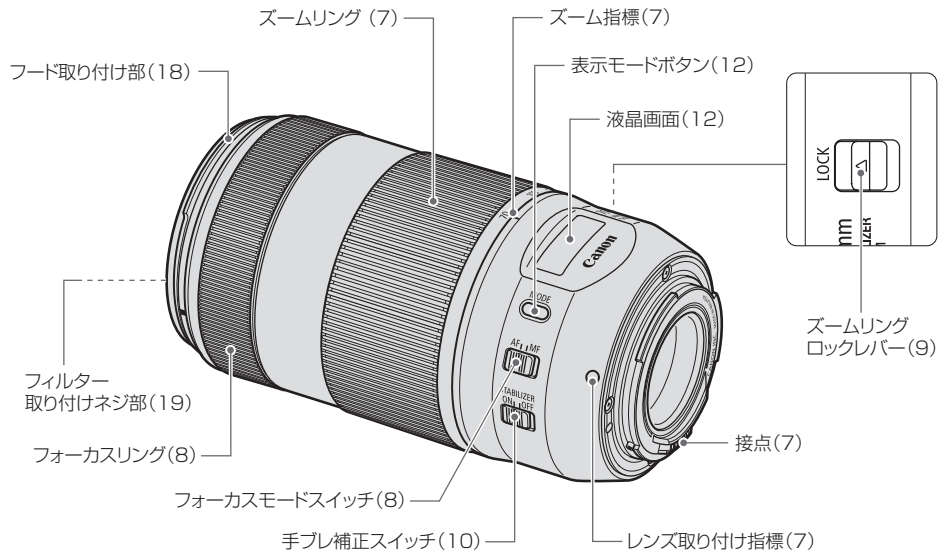
カメラの電源が入っていても、レンズが休止状態のときにはモーターが作動しないため、次のことにご注意ください。

- マニュアルフォーカスでのピント合わせはできません。
- ズーミングすると、ピントズレが生じます。
- レンズの休止状態からの復帰には、シャッターボタンを半押ししてください。

フィルム一眼レフカメラに装着した場合のご注意

- フォーカスレンズの駆動速度が遅くなります。
- カメラの内蔵ストロボ充電中や静止画の露光中にズーミングすると、ピントズレが生じます。
- 電源スイッチが〈ON〉の場合でも、ズーミングすると、ピントズレが生じることがあります。その場合は、シャッターボタンを半押しした状態でズーミングをしてください。
- AFモードまたはAF動作がONE SHOT AFのとき、AF後にシャッターボタンを半押しした状態でズーミングすると、カメラの表示がマニュアルフォーカスに切り換わることがあります。
- 連写中にズーミングすると、連写速度が遅くなる場合があります。
- ズーミングのあと数秒間は、AFが働かないことがあります。
- EOS-1V/HS以外のフィルム一眼レフカメラでは、シャッターボタンを半押し／全押し、または表示モードボタンを押しても、本レンズの液晶画面に情報表示 (p.12 ~ 16) が行われなないことがあります。
- 一部のフィルム一眼レフカメラでは、本レンズの液晶画面に情報表示を行うと、AFが働かなくなります。その場合は、液晶画面に情報表示をしない設定 (p.12) で撮影をしてください。

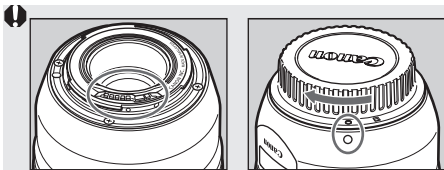
各部の名称



● (**) の ** 部は参照ページを示しています。

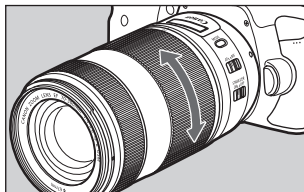
1. レンズの着脱

カメラにレンズを着脱する方法は、カメラの使用説明書をご覧ください。



- レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように接点を上にして置いてください。
- 接点に汚れ、傷、指紋などが付くと、接触不良や腐食の原因となることがあり、カメラやレンズが正確に作動しないことがあります。
- 汚れや指紋などが付着した場合は、柔らかい布で接点を清掃してください。
- レンズを外したときは、レンズキャップとダストキャップを付けてください。ダストキャップの取り付けは、図のようにレンズ取り付け指標とダストキャップの○の指標をあわせて時計方向に回します。取り外しは、逆の手順で行います。

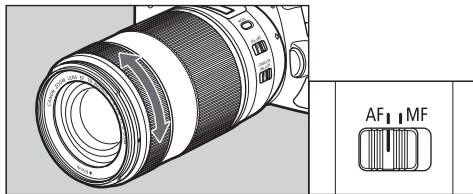
2. ズーミング



ズームリングを手で回してズームングします。

- ピント合わせはズームングしたあとで行ってください。ピントを合わせてからズームングすると、ピント誤差が生じることがあります。
- ズームリングを急回転させた場合、一時的にピントがボケることがあります。
- 電源が切れた状態でズームングすると、ピントズレが生じます。
- 静止画の露光中にズームングすると、ピントズレが生じ輝点などの軌跡がボケます。

3. フォーカスモードの設定



カメラのAFモードまたはAF動作がONE SHOT AFのときは、AFでピントを合わせたあと、シャッターボタンを半押しした状態でフォーカスリングを回すと、任意にピントを調整できます。(フルタイムマニュアルフォーカス)

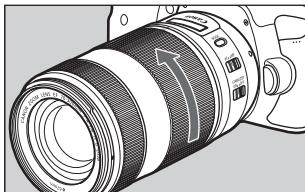
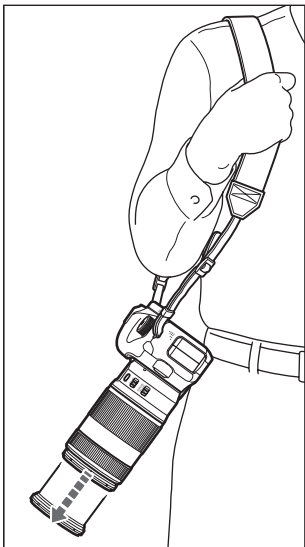
オートフォーカス(AF)で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。

マニュアルフォーカス(MF)で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを手で回してピントを合わせます。

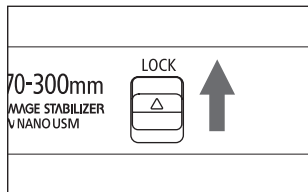
- フォーカスリングを急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。
- 電源が切れた状態では、MFでのピント合わせはできません。

4. ズームリングの固定

ズームリングを固定して、レンズを最短状態に保持できます。ストラップ付きカメラに装着した状態で運搬するとき、ズーム繰り出し部が伸びてしまうことを防ぎます。



1 ズームリングをワイド端（70mm）まで回します。



2 ズームリングロックレバーを矢印の方向にスライドします。

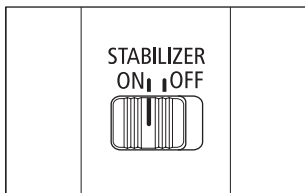
- ズームリングの固定を解除するときは、ズームリングロックレバーを矢印の反対方向にスライドします。

! ワイド端以外でのズームリングの固定はできません。

5. 手ブレ補正機能

手ブレ補正機能はフォーカスモードがAF/MFどちらの場合でも使用できます。

また撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮りなど）に応じて最適な手ブレ補正を行います。



〈ON〉



〈OFF〉

1 手ブレ補正スイッチを〈ON〉にします。

- 手ブレ補正機能を使用しないときは〈OFF〉にします。

2 シャッターボタンを半押しすると、手ブレ補正機能が働きます。

- ファインダー像が安定したことを確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します。

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影で効果を発揮します。

- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボ撮影が禁止されている場所
- 足場が不安定な状況
- 移動する被写体を流し撮りする場合
- その他、速いシャッター速度が使用できない状況

手ブレ補正機能

- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- バルブ（長時間露光）撮影のときは手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にしてください。〈ON〉にすると手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 手ブレ補正機能を〈ON〉にすると、〈OFF〉のときにくらべて電池が消耗し、撮影可能枚数や動画撮影可能時間が少なくなります。
- シャッターボタンから指を離しても、約2秒間は手ブレ補正機能が作動しています。この間はレンズを外さないでください。故障の原因になります。
- EOS-1V/HS、3、7、7s、55、Kiss III、Kiss III L、IX E、D30のセルフタイマー撮影では、手ブレ補正機能は作動しません。



- 三脚を使用した場合もブレ補正効果が得られません。ただし三脚の種類や撮影条件により、手ブレ補正機能を〈OFF〉にした方が良い場合があります。
- 一脚を使用した場合も、手持ち撮影と同等の手ブレ補正効果がありますが、撮影条件によっては、手ブレ補正効果が低下する場合があります。
- 手ブレ補正機能はエクステンションチューブ EF12 II/EF25 II を使用しても作動します。
- カメラによっては撮影後などに像ゆれが発生することがありますが、撮影への影響はありません。
- カメラのカスタム機能でAF作動方法を変更したときは、変更後のAF作動ボタン操作でも手ブレ補正機能が作動します。

6. 液晶画面

液晶画面には、カメラの電源が〈ON〉の場合に「撮影距離」「焦点距離」「揺れ量」のうち、一つを選択して表示することができます。

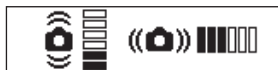
(1) 撮影距離表示モード



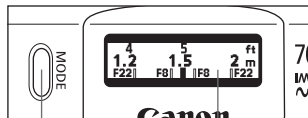
(2) 焦点距離表示モード



(3) 揺れ量表示モード



■ 液晶画面に情報を表示する／表示しない



表示モードボタン

液晶画面

表示モードボタンを長押し（2秒以上）することで、液晶画面に情報を表示するかしないかを、切り換えることができます。

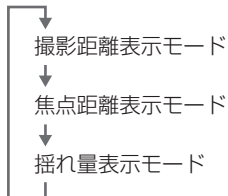
情報を表示しない場合には、カメラやレンズを操作しても、情報の表示は行われません。

- 液晶画面に情報を表示した場合、表示しないときに比べて電池が消耗し、撮影可能枚数や動画撮影可能時間が少なくなります。
- 液晶画面には、照明の点灯や表示濃度を調整する機能はありません。

液晶画面

■ 表示モードの切り換え

情報の表示中は、表示モードボタンを短く（1秒未満）押すたびに、表示モードが切り換わります。



- カメラの電源を〈OFF〉にしても、表示モードはそのまま記憶されます。
- 表示モードボタンを長押し（1秒以上2秒未満）するたびに、表示が白黒反転します。



■ 表示モードについて

(1) 撮影距離表示モード



レンズの撮影距離を表示します。一番下の段には、被写界深度目盛を表示しています。(p.17の『8.被写界深度目盛』を参照)

(2) 焦点距離表示モード



レンズの焦点距離を表示します。撮像画面サイズがAPS-Hサイズ、またはAPS-Cサイズのカメラに装着した場合は、35mmフォーマット換算での焦点距離イメージ（p.20の『資料』を参照）が表示されます。

35mmフォーマット換算での焦点距離イメージを表示するときは、液晶画面の左下に「35mm EQV」が表示されます。

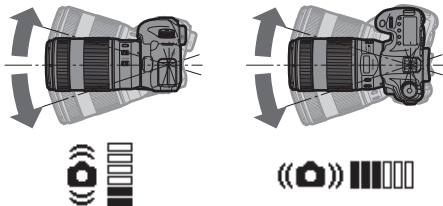
液晶画面

- 撮影距離表示および焦点距離表示はあくまで目安です。
- 35mmフルサイズカメラに装着した場合に、液晶画面とズームリングの表示にズレがあるときは、ズームリングの表示にしたがってください。
- 次の場合は、35mmフォーマット換算は行われません。
 - ・ EOS 5DS、5DS Rに装着した場合の、1.3倍および1.6倍のクロップ撮影設定時
 - ・ EOS D6000、EOS D2000、EOS DCS 1、EOS DCS 3の各カメラに装着した場合
 - ・ 画像情報（Exif情報）に記録される焦点距離情報

(3) 揺れ量表示モード



カメラとレンズの上下・左右方向への角度揺れ量を表示します。




- 揺れ量表示はあくまでも目安です。揺れない状態を示していても、ブレのない撮影結果を保証するものではありません。
- 揺れ量表示は、手ブレ補正機能を働かせるセンサーの情報を用いています。ただし、手ブレ補正機能のブレ残りや効き量を示すものではありません。
- 液晶画面はレンズの外観にあるため、カメラのファインダーや液晶モニターと同時に見ることはできません。そのため、手ブレを小さくするカメラの構え方やシャッターの切り方などの確認の目安にご使用ください。

■ カメラの種類による情報表示方法

液晶画面に情報を表示する設定(p.12)のときに、情報の表示が行われる条件は、装着するカメラの種類(①～③)によって異なります。

① フィルム一眼レフカメラまたはデジタル一眼レフカメラに装着した場合は、次の操作を行うと液晶画面に約10秒間情報が表示されます。


- シャッターボタンの半押し／全押し
- 表示モードボタンを押す(2秒未満)

 ● 情報表示中に次の操作を行うと、そこからさらに約10秒間表示されます。

- ・ シャッターボタンの半押し／全押し
- ・ 表示モードボタンを押す(2秒未満)
- ・ マニュアルフォーカス操作
- ・ ズーム操作
- ・ ライブビュー撮影から静止画撮影への切り換え操作
- ・ 動画撮影から静止画撮影への切り換え操作

② デジタル一眼レフカメラに装着した場合、次の操作で常時表示に切り換わります。

- ライブビュー撮影への切り換え
- 動画撮影への切り換え
- 動画撮影に設定された状態で、カメラの電源を〈ON〉にする

 常時表示状態から表示を消す場合には、表示モードボタンを長押し(2秒以上)してください。

液晶画面

③ ミラーレスカメラ（EOS Mシリーズ）に装着した場合は*、機種により次の2通りに分かります。

* マウントアダプター EF-EOS Mの使用が必要です。

③-1：EOS M10, M3


カメラの電源を〈ON〉にすると常時表示されます。


③-2：EOS M2, M

● 動画撮影の場合は、カメラの電源を〈ON〉にすると常時表示されます。

● 静止画撮影の場合は、カメラの電源を〈ON〉にしたあと、次の操作で常時表示されます。

- シャッターボタンの半押し／全押し
- 表示モードボタンを押す（2秒未満）

 常時表示状態から表示を消す場合には、表示モードボタンを長押し（2秒以上）してください。

-  ● 装着するカメラにより、オートパワーオフ中は、表示モードボタンを押しても情報表示は行われなことがあります。オートパワーオフからの復帰には、シャッターボタンを半押しします。
- EOS-1V/HS以外のフィルム一眼レフカメラでは、シャッターボタンを半押し／全押し、または表示モードボタンを押しても、情報表示は行われなことがあります。
- EOS-1D Mark III, EOS-1Ds Mark IIIでは、ライブビュー撮影モードへの切り換え操作を行っても、情報表示は行われません。
- 装着するカメラにより、表示開始から10秒に満たない場合でも、情報表示が消えることがあります。
- 装着するカメラにより、情報表示の延長が10秒に満たないことがあります。
- 装着するカメラにより、カメラのダイヤルやメニューなどのボタン操作で、情報表示が消えたり、10秒に満たないことや10秒以上表示を続けることがあります。
- 一部のカメラを除きバルブ（長時間露光）撮影モード設定時に、シャッターボタンを半押し／全押ししても、情報表示は行われません。
- タイムラプス動画を撮影中に、情報の表示／非表示を不規則に繰り返すことがあります。

7. 無限遠補正マーク

『6. 液晶画面』を参照して、表示モードを「撮影距離表示モード」に切り換えます。



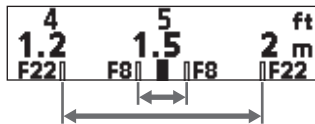
温度変化によるピント移動を補正するため、無限遠（∞）位置に余裕を持たせてあります。常温の無限遠位置は、撮影距離表示のLマークの縦線と距離指標が合うところです。

- 無限遠の被写体にMFで正確にピントを合わせる場合は、ファインダーまたは液晶モニターの拡大画像*で確認しながらフォーカスリングを回してください。

* ライブビュー撮影可能なカメラの拡大表示で確認できます。

8. 被写界深度目盛

『6. 液晶画面』を参照して、表示モードを「撮影距離表示モード」に切り換えます。



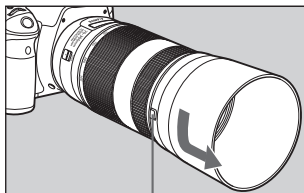
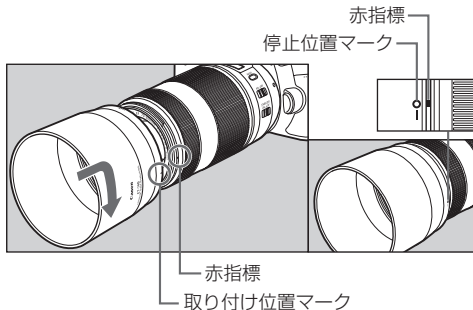
ピントを合わせた被写体の前後で、鮮明に写る一定の範囲を被写界深度といいます。被写界深度の範囲は、撮影距離表示下部の被写界深度目盛ではさまれた範囲です。

目盛横の数値はF値を示しています。

- 被写界深度目盛の位置は、ズーム操作により変化します。「F8」の文字は、表示スペースが狭くなると表示が消え、F8を示す目盛のみが表示されます。さらにテレ端（300mm）近くになると、F8を示す目盛の表示も消えます。
- 被写界深度目盛はあくまでも目安です。

9. フード（別売）

レンズフードET-74Bは、有害光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



ボタン

●取り付け

フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標をあわせ、赤指標とフードの停止位置マークが合うまで、フードを矢印の方向に回して確実に取り付けてください。

●取り外し

フードの側面にあるボタンを押しながら、フードの取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標が合うまで、フードを矢印の方向に回して取り外してください。

収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。



- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元付近を持って回してください。フードの先端付近を持つと変形して回らなくなることがあります。

10. フィルター（別売）


フィルターは、レンズ先端のフィルター取り付けネジ部に取り付けてください。

- フィルターは1枚のみ使用できます。
- 偏光フィルターはキャノン円偏光フィルター PL-C B (67mm) を使用してください。
- 円偏光フィルターの調整操作は、フードを外した状態で行ってください。

11. エクステンションチューブ（別売）

エクステンションチューブEF12 II/EF25 IIを使用して拡大撮影ができます。撮影距離範囲と撮影倍率は次のようになります。

		撮影距離範囲(mm)		撮影倍率(倍)	
		近距離側	遠距離側	近距離側	遠距離側
EF12 II	70mm	468	623	0.25	0.17
	300mm	1055	7645	0.32	0.04
EF25 II	70mm	355	406	0.47	0.38
	300mm	953	3908	0.40	0.09

 正確なピント合わせのため、MFをおすすめします。

資料

■ 35mmフォーマット換算での焦点距離イメージについて

撮像画面サイズがAPS-Hサイズ、またはAPS-Cサイズのカメラに装着した場合は、焦点距離を各々 1.3倍、1.6倍した値が表示されます。例えば、APS-Hサイズに装着した場合は、焦点距離70mmのときは91mm、焦点距離300mmのときは390mmと表示され、またAPS-Cサイズに装着した場合は、焦点距離70mmのときは112mm、焦点距離300mmのときは480mmと表示され、同時に液晶画面の左下に35mm EQVと表示されます。

主な仕様

焦点距離・明るさ	70-300mm F4-5.6
レンズ構成	12群17枚
最小絞り	F 32-45
画角	対角 34°～8° 15'、垂直 19° 30' ～4° 35'、水平 29°～6° 50'
最短撮影距離	1.2m
最大撮影倍率	0.25倍（300mm時）
画界	約365×554～97×144mm（1.2m時）
フィルター径	67mm
最大径×長さ	80×145.5mm
質量	約710g
フード	ET-74B（別売）
レンズキャップ	E-67 II
ケース	LP1222（別売）

- レンズの長さはマウント面からレンズ先端までの寸法です。
付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+24.2mmになります。
- 大きさ・質量表示は本体のみの値です。
- エクステンダーは使用できません。またクローズアップレンズは使用可能なサイズがありません。
- 絞り値は、カメラ側で設定します。ズーミングによる絞り値の変化はカメラが自動的に補正します。
- 記載データはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ

canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター

050-555-90002 (直通)

受付時間〈平日/土/日/祝〉9:00～18:00

(1/1～3は休ませていただきます)

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-211-9556をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon